

東海学園女短大 ○西条 セツ
名古屋市立女短大 高橋 春子

1. 全国校長協会主催の被服技術検定を行なう機会に、フリッカー測定器と近点計器により眼の疲労状態を測定した。

2. 1) 和裁2級テストの材料は(大裁女単衣)木綿浴衣地27.7'S×30'S, 36cm×11mを使用し、準備及び作業は技術検定要項により、仕立上標準時間は5時間である。

2) 和裁検定の生徒は高校生45名で、作業と同時に1時間ごとに測定した。

(A) 第1班は23名で午前中2時間作業後、1時間の休憩をとり、午後更に3時間の作業を行った。

(B) 第2班は22名で午前中4時間の作業後、1時間の休憩をとり、午後更に1時間の作業を行なった。

3. 第1班は午前中2時間作業の生徒は、昼食休憩によりフリッカー値は上昇して効果をみせ、近点値においても80%の生徒は回復している。更に午後の作業は上昇またはジグザグの高エネルギー者が両値とも70%にあった。

第2班は午前中4時間作業の生徒は、昼食休憩による効果は顕著にでていたが、5時間作業後において、全員フリッカー値が低下して疲労がめだち、近点値は第1班と大差のない低下を示している。

午前中2時間作業と4時間作業後の休憩効果は、いずれの場合もあらわれているが、4時間続行後の作業線は下降一途である。従って4時間作業続行の場合は、長時間の休憩を必要とすることがわかった。